

# 「Ruby」規格化への道程

2008年 独立行政法人 情報処理推進機構 (IPA) オープンソフトウェア・センターに“Ruby標準化ワーキンググループ”を設置  
委員長: 筑波大学名誉教授 中田 育男氏



- ◆ Rubyの文法や基本的なライブラリ等の言語仕様原案の作成
- ◆ Rubyコミュニティによるレビュー
- ◆ 日本工業標準調査会によるレビュー

2011年3月 JIS規格 JIS X 3017 制定



- ◆ ISO/IEC JTC 1やRubyコミュニティとの連携による国際規格案の策定
- ◆ 日本工業標準調査会を通じた国際規格案としての提案
- ◆ ISO/IEC JTC 1における国際規格承認のための最終投票

2012年4月 国際規格 ISO/IEC 30170 承認



- ✓ 国際規格化の完了を受け、今後は保守及び改訂作業が発生
- ✓ 規格の発展・普及のためには、言語の技術開発者や利用者と密接な関係を持つ者の主導とすべきではないかとの議論

2013年5月 Ruby規格保守等基本契約 締結

一般財団法人RubyアソシエーションとIPAが、IPAが作成した原案を元に制定されたRuby言語仕様の国内・国際規格文書について、Rubyアソシエーションが規格の保守及び改訂の作業を主導する体制とする旨確認。